

『ペーパー・ペイシェントで学ぶ教える 第2版 精選18の事例演習』

考えることの楽しさ・手応え を引き出す問いの宝庫

編集：坪倉繁美

定価：2,310円(本体2,200円+税5%)

発行：医学書院／TEL：03-3817-5657



この本には、ペーパー・ペイシェントで“考えるための手がかり”が凝縮されている。紙上に示された対象を把握し、アセスメントから看護計画を立案するプロセスにおいて、何を、どう考えればよいかという「問い」を投げかけ、問題解決思考を導いてくれる。主要疾患の病態生理から看護展開まで順を追って詳述する模範的ケーススタディとは一線を画する。

“手がかり”は前版から精選された18事例に盛り込まれている。まず「必要な知識」を携え、次に「イメージ化」で対象の体験世界に寄り添い、さらに「因果・関連・発展思考」により問題解決の糸口をつかむという構造だ。そしてこの指針は、体験的知識を活かし安定した知識として再構築する「帰納的学習」の視点で貫かれている。

准看護師として10年以上のキャリアをもつ2年課程通信制の学生は、帰納的学習を行なうための看護体験を豊富にもっている。それにもかかわらず、彼／彼女らは「考えること」の前で萎縮してしまいがちである。事例を前に、何をどう展開すればよいかわからないと途方に暮れる者、模範事例集に答えを求め、部分だけを抜き取り、パズルのようにはめ込む者もいる。

そうした中で「イメージ化」は、彼／彼女らの強みを引き出す有効な問いだ。例えば、成人看護学の事例1「腹部から便が出るというボディイ

メージの変化を受け入れること」から、これまでの体験と知識を総動員し、姿の見えない患者の気持ちを推し測ることができる。10年のキャリアが、患者の体験世界に寄り添うことを容易にする。このイメージ化によって、「この人の疾患や看護についてもっと知りたい」という知的好奇心が触発されると「因果・関連・発展思考」の問いは効力を一層増す。例えば「手術(マイルズ法)による神経損傷と排尿障害との関係」から因果関係がわかれば、膀胱内留置カテーテルの固定の工夫や、長期留置に伴う注意点へと関連づけて考えることができる。これは、看護の根拠や理由をそれまであまり自覚しないまま行なってきた得られた知識が、こうした問いを受けて考えることで意味として形を成し、安定した知識へと変化していくことを表わしている。「自分がやってきたことにはちゃんと意味があった。根拠に裏づけられていた」という発見や感動は、帰納的学習の原動力になる。

看護体験を豊富にもつ2年課程通信制の学生だからこそ、帰納的学習を取り入れることには意義がある。学生が、アセスメントの模倣やパズルに終始せず、自分で考えることの楽しさや手応えを実感できるように、そして教員は「指針」を活用して学生の問題解決思考を鍛えることができるように、ペーパー・ペイシェントで学ぶ・教えることの奥深さを、この本は教えてくれる。